

龍馬を求める人々の思いに応えるとともに、龍馬の中核施設としての機能充実を図る

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき龍馬に関する資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 他の博物館との連携や資料所有者との信頼関係の構築に努め、資料の充実を図る
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

- ・平成 30 年度の企画展では、これまでに築いてきた県内外の博物館などとの信頼関係を生かして、数多くの貴重な資料を借用することができ、特に「ジョン・マンと呼ばれた男」展では、米国からジョン・マン直筆の英文書簡など、日本初公開となる資料の借用が実現した。
- ・各企画展期間中における記念講演会や「坂本龍馬とその時代」をテーマとする連続講演会を実施し、様々な歴史研究者との新たな関係づくりができた。
- ・「志国高知・幕末維新博」第2幕のメイン会場として、関係施設との連携強化に努めた。
- ・新館の整備に伴い、収蔵庫は貴重な資料の保存環境が整ったが、展示設備は展示ケース内の有害物質の除去に課題が残り、当初予定していた京都国立博物館の重要文化財の借用ができないなどの事態に陥った。
- ・対策として展示台のふき取りや有害物質吸着シートの活用などを継続して実施した結果、毎月実施している環境測定では改善が見られ、対策の継続的な実施が必要だが、適正な展示環境を維持できる状態となった。
- ・所蔵資料や図書のデータベースを構築し、適切な管理を実施している。
- <寄贈資料>
- ・「蘭和辞書『ドゥーフハルマ』」12 冊、「『中濱万次郎漂流記』写本 安政 3 年 5 月」1 冊
- <寄贈資料>
- ・ペリー日本遠征記(1856 年刊) 3 冊
- <購入資料>
- ・坂本龍馬や幕末に関する絵図や錦絵など 18 点
- <複製品の製作>
- ・「木戸孝允書簡 龍馬宛 慶応 3 年 9 月 4 日」、「先祖書指出書控」など 17 点

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂本龍馬関連資料をはじめ、貴重な資料を収集し、所蔵資料の充実を進めていることが認められる。</li> <li>・県内外の博物館との信頼関係により、貴重な資料を借用するなど、協力を得ることができている。</li> <li>・展示環境に課題があり、予定していた資料の借用ができないなどの事態となっていたが、必要な対策を講じて適正な展示環境を維持できるよう努めている。</li> </ul>

要求水準－調査・研究

龍馬に関する調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

- (1) 職員の専門性の向上を図るとともに、龍馬とその関連分野に関する調査研究を進める
- (2) 調査研究の成果を、企画展や広報媒体などを活用し、広く公表する

状況説明

・「大義と忠誠の戊辰戦争」「ジョン・マンと呼ばれた男」「御所をまもった土佐の士」展など龍馬に焦点が当たらない企画を通じて、調査・研究分野の拡大と幕末維新期に関する専門性の向上に取り組んだ。

・施設の環境管理等について、高知大学准教授や専門家の助言を得ながら、専門の事業者とともに、具体的な対策に取り組むことで、ノウハウを学び専門性を高めた。

・九州国立博物館が主催する古文書保存講座や、県文化財団が実施した資料保存法等専門研修等に参加し、博物館としての管理運営に関するスキルアップに努めた。

・学芸員が行った調査・研究については、その成果を企画展・特別展に反映させるとともに、無料小冊子の発行や、それぞれの展示に関するマスコミを対象とした事前説明会の実施、展示期間中の講演会の開催(全5回 467人)など、龍馬や幕末期の研究をめぐる新たな情報などを広く公表し、提供した。

・学芸員が行った調査・研究に関する論文などを掲載した「研究紀要」を創刊した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・調査・研究分野の拡大に取り組んでいることが認められる。</li><li>・様々な研修を活用し職員の専門性の向上に取り組んでいることが認められる。</li><li>・企画展だけでなく、無料小冊子の発行や、企画展開催中に展示に関係した講演会、研究紀要の創刊等により、調査・研究の公表機会を広げたことが認められる。</li></ul>

要求水準－展示・公開

土佐の気風と幕末維新の息吹が感じられる魅力ある展示やサービスの提供により、龍馬の業績を伝える

評価項目

- (1) 「桂浜」や「龍馬像」に隣接する立地条件を生かし、来館者の増加につなげる施策を戦略的に展開することにより、5年間で70万人以上の来館者を目指す
- (2) 来館者に龍馬の志や生涯を深く理解してもらえよう、幕末史や土佐の郷土史のなかに龍馬を位置づけた展示を行う
- (3) 龍馬に関する専門施設として、一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや、学芸員によるギャラリートークなど、来館者の理解が深まる取り組みを充実させる

状況説明

- ・平成 30 年度の来館者の年間目標人数は達成したものの、5 年間の目標である 70 万人は達成できなかった(H26～H30 年度計 697,850 人)。
- ・「志国高知・幕末維新博」第2幕のメイン会場としての位置づけのもと、県や観光コンベンション協会との連携を図りながら、県内外の旅行者へのアプローチ、メディアを活用した広報宣伝活動を展開した。
- ・高知市観光協会や桂浜荘、桂浜水族館など桂浜地域の事業者と連携し、「龍馬まつり」を通じた賑わい創出の一端を担った。
- ・新館の常設展示では、幕末を象徴するペリー来航の展示に始まり、龍馬の生い立ちから土佐勤王党への加盟、脱藩、薩長同盟、幕長戦争、大政奉還といった幕末の歴史的な出来事を辿る中で、龍馬をはじめ新しい国づくりに向けて活躍した土佐の志士たちの書簡や、京都土佐藩邸の資料などを展示した。
- ・本館では、浦戸城と長宗我部氏を紹介するコーナーを設けたほか、龍馬が生まれ育った土佐の城下町の様子や身分制度に関する展示を行うなど、郷土史とともに龍馬を学ぶことができる展示となっている。
- ・来館者の問い合わせには学芸員が出向いて対応するほか、電話や HP を通じた問い合わせにはメールや手紙によって回答するなど、一人一人の疑問に丁寧な回答の取り組みを行った。また、様々な団体からの講演依頼や取材申し込みにも可能な限り応えた。
- ・団体での来館者に対しては、要望に応じて観覧に先立って、企画展示の狙いや展示の「見どころ」などの紹介をホールで行うなど、龍馬や幕末の歴史の理解に繋げる取り組みを行った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルオープンし、「志国高知幕末維新博」のメイン会場となったことに伴い、4月から12月までの目標人数(15万人)を達成するとともに、年度目標である20万人も超えている。</li> <li>・専門的な資料展示の新館、より身近にわかりやすく説明している本館と、二つの違った趣向の展示をすることにより、龍馬の活動や業績について、龍馬ファンのみならず幅広い来館者の方々に幕末の歴史の魅力を伝える展示としている。</li> <li>・来館者のみならず、龍馬と幕末に関心を持つ全国の方々への疑問や意見に応じている。</li> </ul>

要求水準－教育・普及

次代を担う子どもたちをはじめ、県民に龍馬について正しく理解してもらうため、教育普及活動の充実を図る

評価項目

- (1) 学校との連携による出前授業の実施や校外学習活動の受入を積極的に行うなど、子どもたちの幕末維新や土佐の歴史を学ぶ機会を充実させる
- (2) 龍馬に関する講座やシンポジウムの開催など、龍馬への県民の理解が深まる取り組みを充実させる

状況説明

- ・坂本龍馬に関心を持ってもらうため、記念館の元学芸専門員が県中央部の幼稚園・小・中学校を中心に出向き、出前授業を13校(39回)で実施、653人の参加があった。
- ・「夏休み子ども・龍馬フォーラム」では、龍馬と慎太郎との関りを学ぶため北川村「中岡慎太郎館」へのバスツアーを実施。41名の小中学生やその保護者が参加した。
- ・「夏休みこども教室」では幕末期の遊びや「刀」づくりを体験するための工作教室を実施。56名の小学生が参加した。
- ・校外学習で来館した小中学生を対象に、当館の概要や展示の見どころ、龍馬の活躍等を説明し、幕末維新や土佐の歴史についての知識を広める機会を提供した(33校 1,269人)。
- ・「坂本龍馬とその時代」をテーマとする連続講演会(全5回)を開催し、龍馬について様々な視点から研究している県内外の第一人者を講師として各々の研究について話していただき、新たな発見や知識等を得ることができた。この講演会には延べ268人の参加があった。
- ・「現代龍馬学会」での講演会や研究発表も行い、坂本龍馬や幕末維新への県民の理解、関心が深まる取り組みをすすめた。
- ・龍馬脱藩をテーマにした創作能「龍馬」の公演を行うとともに、能の解説などを行うワークショップを開催するなど、龍馬を通じて伝統芸能に触れる機会を提供した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・小中学生の夏休み期間中にはユニークなワークショップを行うなど、子どもたちの歴史への興味を持つきっかけにつながる取り組みを継続して行っている。</li><li>・連続講演会での様々な視点からの研究成果の発表や、創作能「龍馬」の公演を通じて、龍馬をより深く理解することに繋がった。</li></ul>

## 要求水準－広報

龍馬に関する情報を全国に発信し、新たなファン層の拡大とリピーターの定着を図る

### 評価項目

- (1) ホームページを活用し、より多くの方に龍馬を知ってもらうとともに、来館への動機づけにつながるような情報発信を行う
- (2) 来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いをくみ上げる取り組みを継続して行うとともに、その内容を活用し効果的な広報を行う

### 状況説明

- ・ホームページのリニューアルを契機に、スマートフォンへの対応や動画の導入など閲覧者のニーズに応じた見せ方や、龍馬に関するクイズによる子ども向けのページの充実など、幅広い年齢層に龍馬や当館への関心を引き起こす工夫を行った。
- ・また、イベントや企画展の開催等の情報をトップページで紹介するなど、新しい情報をタイムリーに提供できるよう努めた。
- ・館内に、アンケートや「拝啓龍馬殿」を記入するためのスペースを設置し、観覧者の記念館への期待や龍馬に対する思いなどを拾いあげ、意見等については、広報誌「飛騰」で紹介するとともに、職員が情報を共有し、展示や接客・案内の改善に活用した。
- ・来館のきっかけとなった広報媒体に関する情報を把握し、広報計画を検討する際の参考としている。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・ホームページについては、来館の動機づけになるような情報の発信や、新たなファン開拓めざす工夫を行っているものの、情報の更新が遅れる場合があり、ホームページの運営体制を整えることが必要である。</li><li>・館内アンケート等を活用し、広報のあり方や展示・接客などについて活用していることが認められる。</li></ul>

要求水準－その他
評価項目 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状 況 説 明
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の借用や複製の制作などを通じて、京都国立博物館をはじめ、福島、福井、山口、長崎など県外の龍馬関係の文化施設との連携や協力関係を更に強めることができた。</li> <li>・県内の文化施設についても、講演会や夏休みイベントでの中岡慎太郎館との連携や、展示環境の改善に関して高知城歴史博物館や高知県立歴史民俗資料館などから助言や協力を得ることによって、事業の内容の充実と管理運営能力の向上に取り組んだ。</li> </ul>

評 価	理 由
A	県内外の関係施設との連携を通じて、職員の専門性の高まりやスキルアップが進んでおり、様々な展示の充実と来館者の満足度の向上に繋げている。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目		
(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

・法令及び就業規定等諸規定の順守に努めた。しかし、会計書類において書類作成日の記載漏れ等もあり、なお、適正な書類作成に心がける。  
 ・建物や設備については、保守管理を業者に委託し、連絡を密に行い来館者の安全を一番に考え、適正な管理に努めた。  
 ・消防計画に沿った館内組織体制を定め、新たな施設での危機管理マニュアルを作成し、職員に周知し、職員の目に付く場所に掲示している。しかし、消防訓練、避難誘導訓練が未実施となった。地震等への備えについては、館内にヘルメットの配置や水、簡易トイレ等の備蓄をしている。

評価	理由
B	概ね要求水準どおり、適切な管理運営を行っている。

評価項目		
(2)利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況	・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明

・館内に、アンケートや「拝啓龍馬殿」を記載できるスペースを設置し、観覧者の記念館への期待や龍馬に対する思いなどを拾いあげた。  
 ・また、メールや電話による来館者のご意見や苦情に対しては、真摯に対応し、迅速な回答を行った。  
 ・財団本部が実施する研修(普通救命講習、学芸員専門研修)や外部団体が実施する研修(おもてなし研修、著作権研修、国宝・重要文化財防災・防犯対策研修)に参加し職員の資質の向上に努めた。  
 ・利用者の事故に対しては、事故等対応手順を策定し、対応についての確認を行った。

評価	理由
B	概ね要求水準どおり、利用者サービス向上に向けた取り組みを行っている。

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
平成30年度の目標であった来館者数 20 万人を超える 208,951 人の来館者となり、目標は達成した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県や観光コンベンション協会などと協力し、プロモーション活動に努め、目標来館者に対し 104.5%の来館者数となった。</li> <li>・平成 28 年度と比較して、来館者が 159.2%となった。</li> </ul>

評価項目		
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者数の増加に伴い、観覧料収入等の事業収入も増加した。</li> <li>・記念館も 1 棟から 2 棟となり、経常経費が増加したものの、電気量のデマンドの活用や日々の消耗品等の節減に努めるなど、経費の削減ができた。</li> </ul>

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルによる来館者増加による収入増加や、電気量のデマンドの活用等による経費削減の取組に努力が認められる。</li> <li>・収支差額が黒字となった。</li> </ul>



評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示ケース内の空気環境に課題があり、重要文化財の借用ができなかったという問題が発生したが、その後の対策によって適切な状態を維持できるようになっている。</li> <li>・県内外の博物館・関係機関との連携を深め、活動の充実に繋げることができている。</li> <li>・龍馬関係の貴重な資料を収集し、所蔵資料の拡大ができている。</li> <li>・職員研修の充実に取り組み、職員の質を高めることができている。</li> <li>・HPやマスメディアを活用した戦略的な広報手段を用い、集客を図ることができている。</li> <li>・企画展における記念講演会や連続講演会の開催により、新たな龍馬研究の成果を得て、博物館としての専門的な情報発信につなげることができている。</li> <li>・児童生徒への教育普及事業活動を通じて次世代の龍馬ファンの育成を図ることができている。</li> </ul> <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

#### 評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。